

会 長 殿
理事・監事・運営委員 殿
各県自衛隊家族会会長 殿

家族会事 2 号
R 8 . 1 . 0 6
公益社団法人自衛隊家族会
事務局 長 阿部 知己

令和 8 年 1 月「月 報」



1 はじめに

新年明けましておめでとうございます。
自衛隊家族会会員の皆様におかれましては、
お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

令和 8 年（2026）

さて、今年は自衛隊家族会の前身である全国自衛隊父兄会が法人として活動を始めて 50 年を迎えます。

自衛隊は、わが国の平和と独立を守り、世界の安定に寄与する組織として活動しながら、必ずしも肯定的に受け止められず、全国自衛隊父兄会十年史の加藤陽三元副会長の回顧談の項に記述されているように「自衛隊に対する理解不十分、したがって風当たりも強く、自衛隊員が堂々と胸を張って街を歩くという雰囲気ではなかった。」という厳しい環境にありました。そのような環境下、自衛隊員の心の支えとなったのが肉親であり、父兄会でした。その後任意団体であった父兄会は全国組織として法人化し、創成期の先達が歩んだ「荊の道」（前出「十年史」山下元利全国自衛隊父兄会会長「序」より）に思いを馳せながら、自衛隊家族会として活動しているところです。

防衛省・自衛隊に対する理解には隔世の感があり、正会員も「本会の目的に賛同して入会した自衛隊員の家族及びその他の個人」と拡がりましたが、昨年小泉防衛大臣が宮古島等を訪問された際に話題となった「過度な抗議活動」は未だに存在しており、家族会が隊員及び家族のために声を上げねばならない場面は少なくありません。

今年も広く国民の防衛意識の普及高揚に努め、自衛隊に対する協力・支援等を通じ、我が国の安全保障・防衛基盤の確立に寄与することを旨として活動して参りましょう。

2 防衛省・自衛隊の活動（防衛省 HP 等より）

小泉防衛大臣 部隊視察

小泉防衛大臣は、12 月 2 日に府中基地（宇宙作戦群・航空支援集団司令部・航空中央音楽隊）、21 日に相浦駐屯地（水陸機動団）、23 日に大宮駐屯地（陸自衛隊化学学校・中央特殊武器防護隊・第 32 普通科連隊）、25 日に習志野駐屯地（第一空挺団）を訪問し、それぞれ説明を受け、装備品や訓練展示を視察、隊員の激励の他、隊員家族と交流しました。

自衛隊家族会、隊友会、協力会等関係団体との懇談には、府中基地で府中市自衛隊家族会の若菜会長（東京都自衛隊家族会副会長）、大宮駐屯地で埼玉県家族会の斎須会長が参加し、自衛隊家族会の成り立ちや活動の現況等を説明しました。



府中基地 激励



関係団体との懇談



相浦駐屯地 家族と交流



大宮駐屯地 装備品展示 激励

3 家族会の活動

(1) 大規模災害発生時の安否確認訓練

11月9日 都城駐屯地 等で

大規模災害発生時の安否確認訓練が行われ、宮崎県自衛隊家族会が参加しました。概要は、下の図の通りです。



(2) 米子駐屯地、美保基地研修と隊員激励

11月25日、愛媛県自衛隊家族会女性部の森女性部長以下15名は、米子駐屯地・美保基地等を研修し、それぞれ隊員を激励しました。

米子駐屯地には愛媛出身の隊員が4名おりますが、あいにくお会いすることができず、広報室長に激励品を託しました。昼食を米子駐屯地内にある食堂「ブレイブキッチン」でいただいたのち、広報室長案内での資料館を見学し、会員は多数の貴重な展示物に熱心に見入っていました。

美保基地では、出身隊員が13名のうち6名との激励会が実現しました。

冒頭に森女性部長から出身隊員を激励及び激励品を手渡した後、特に松山市家族会森田女性部長のご子息からの自己紹介では大変盛り上がりました。

記念撮影の後C-2輸送機を見学し、コックピット及び貨物エリアの説明を受け、会員からは「貴重な体験ができ、研修に参加して良かった。」との声が聞かれました。

今回の研修で、米子駐屯地司令、美保基地司令、それぞれの広報班の皆様並びに自衛隊愛媛地方協力本部の皆様には、大変お世話になりました。

愛媛県自衛隊家族会女性部は、これからも陸上・航空自衛隊はもとより全国自衛隊を支え応援することを誓うとともに、今後のご活躍を祈念いたします。



(3) 令和7年度第3回理事会（書面決議）

令和7年度第3回理事会が12月初旬に行われ、「令和8年度自衛隊家族会事業計画（骨子）」、「県自衛隊家族会長人事」、「運営委員人事」の他、自衛隊家族会を取り巻く環境の変化を考慮した「定款の変更」（6月の定期総会での議案）、「50周年事業」（「定款の変更」、「家族会の歌」候補作の決定、「記念式典」の実施、「公益社団法人自衛隊家族会50年史」の作成・配布、「永年会員表彰」の実施）の各議案が、それぞれ12月12付で議決されました。

令和8年度自衛隊家族会事業計画（骨子）については既に各県家族会にお届けした通りです。

各県家族会に事前の調査をお願いしておりました「永年会員表彰」については、調査時の案通り、「正会員35年」で、記念事業との趣旨から50周年記念式典以降に実施と決まりました。後日、改めて該当する方についてお名前等をお知らせいたしますので、宜しく願いいたします。尚、この表彰は現在の「表彰及び感謝状贈呈に関する規則」に定める一般功労、募集・援護功労・その他の功労とは別のものですので、誤解なきようお願いいたします。

「自衛隊家族会の歌」は、多くの皆様からの作品応募、まことに有難うございました。
会員の皆様の歌詞募集、各県等家族会への候補作品の提示、投票を経て、令和7年度
第3回理事会（書面決議）で、栃木県自衛隊家族会長 古橋様の作品に決定いたしましたので、紹介いたします。

現在、陸上自衛隊中央音楽隊に作曲をお願いしております。

「自衛隊家族会の歌」

一．日本の大地 駆け巡り

平和の基（もと）い 築きゆく
その背を支える
我らは自衛隊家族会
絆は強く 結ばれて
喜び悲しみ 分かち合う
ああ 自衛隊家族会
心ひとつに 支え行く

二．広がる海原 越えてゆく

四海（しかい）の守り 担う人
その背を支える
我らは自衛隊家族会
波風越えて 励まして
遠く見守り 支え合う
ああ 自衛隊家族会
誇りは高く 支え行く

三．大宙（おおぞら）高く 舞い上がり

日本の宙（そら）を 守る人
その背を支える
我らは自衛隊家族会
任務を終えた 飛行雲
肩組み合って 見つめ合う
ああ 自衛隊家族会
未来へ向けて 支え行く

(4) 自衛隊家族会「問い合わせ窓口」の集計結果（月間報告）

『新年あけましておめでとうございます。』令和 8 年 1 月、年初の「問い合わせ窓口」の集計結果について申し上げます。（とはいいまして内容も内容は昨年末 12 月に対応したものです。）

件数について、各自衛隊出身の担当委員が直接対応したものは 2 件、事務局で対応したものは 4 件であり合計 6 件でした。また、1 件が家族会会員からであり、残り 5 件が家族会会員以外の方からでした。

分類別では、5 件が“相談者や隊員に関する相談”であるⅠ分類で、残り 1 件が“家族会に関する問い合わせ”のⅡ分類でした。

Ⅰ分類の中の 2 件は、隊員の子弟の健康に関するものでした。

その 1 件は、「厳しい訓練の結果アザができる程の筋肉痛を発症しているが、平日は受診するなどの指導を受けた。部隊に言いたいけどどうしたら良いか？」という相談でした。今の時代、自衛隊といえども訓練に支障のある程の障害に対して、それを押して訓練に参加し、訓練に支障があるから休日に受診しろというような熱血（？）、パワハラ上司が存在するのか疑問な点もありますが、「親御さんが本当に心配であれば、部隊に確認することは問題ない」旨を説明し、了解を得ました。

また別の件は、子弟のトコジラミ（南京虫）による虫刺され、酷い虫刺症に対して寝具の衛生措置について部隊指導を依頼する内容でした。トコジラミは、戦後米軍による DDT の散布等により 1970 年頃にはほぼ駆逐された害虫でしたが、近年の外国人旅行者及び外国からの帰国日本人の増大により、彼等が日本に持ち込んだ虫による被害が拡大しており、決して差別する意図は有りませんが外国人の多い大都市及びその近郊での被害が多く発生している都会型害虫被害であり、今回も名古屋近郊の部隊でした。本件については、営内において虫刺症被害が拡大しているのであれば、部隊として当然対処しているはずであり、まして家族会がトコジラミ被害について部隊指導をする立場にはなく、一方で被害が少人数であれば営内全体への被害拡大防止のためにも子弟隊員からいち早く営内班長等に申し出るべき内容であることを申し上げて対応しました。この親御さんの憤慨には、親御さんの頭の中に自衛隊（軍隊）であればトコジラミ被害などは当然存在しかつ頻繁に生起しているであろうという映画「兵隊やくざ」の様な軍隊組織に対するステレオタイプの前提イメージが有るのだと思います。その意味で、部隊側も積極的に清潔な営内環境の公開等の広報活動が必要であるとも感じました。

Ⅰ分類の他の 1 件は新婚のご主人の言葉の暴力についての相談であり、相談先が他に見つからなかったということで、相談がご夫婦の関係の再構築の手助けになればと考えます。

残りのⅠ分類 2 件は、隊員の連絡先に関する問い合わせでした。

Ⅱ 分類の 1 件は、H/P に公開されている内容の「おやばと」を購読する必要があるのかという疑問でした。本件については、昨年 10 月にも同様の内容の問い合わせがあり、本部としての考え方はそちらをご覧頂きたいと思いますが、何れにしても紙面による「おやばと」は家族会にとって大切な存在であり会員各位にはそこをご理解頂きたいとお願い致します。

本窓口の活動で感じますのは、家族自身で直接部隊に問い合わせるという行為に対する敷居の高さです。公の組織であり子弟が世話になっている職場である自衛隊の部隊に対して、直接アプローチするという行為に躊躇があることは常識的であり当然の心象です。「子弟の勤務成績に影響しないか?」、「直接の問い合わせはモンスターペアレントと思われないか?」という様なバイアスが掛かり、悶々とされる親御さんが多いのであろうなという事実です。その意味で、この「問い合わせ窓口」が、例えば部隊に対する指導の様な直截的な解決策を提示出来なくとも、連絡されてきたご家族の悩みや疑問をお聞きし、多少特殊な職場である自衛隊についてご説明することにより、その悩みや疑問が希釈されるのであればと、新春に当たって思っております。

4 事務局からの連絡・お願い

北方領土返還要求運動全国大会の開催について

令和 8 年北方領土返還要求運動全国大会は、2 月 7 日（土）11:00～12:50 の間、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟ホールニッショーホールで開催されます。

会場近傍の各家族会（群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川）の皆様には、それぞれ 5 名の出席をお願いする予定です。（入場整理券は別途送らせていただきます。※警備のため、入場整理券がない方は入場できませんのでご了承ください。）

出席できない皆様には、昨年同様に YouTube により大会の様子を全国配信する予定ですので、皆様のところでご覧いただけます。細部決まり次第、別途連絡します。

以上

配布先

防衛省人事教育局長、文書課長、人材育成課長、厚生課長

統合幕僚監部総務部長、総務課長

陸上幕僚監部人事教育部長、募集・援護課長、同総括班長、厚生課長、家族支援班長

海上幕僚監部人事教育部長、人事計画課長、同募集推進室長、厚生課長、

航空幕僚監部人事教育部長、募集・援護課長、募集・援護調整官、募集班長、厚生課長、厚生班長

陸上総隊司令部総務部長、

各方面総監部人事部長、募集課長、厚生課長、各自衛隊地方協力本部長

各師団・旅団司令部幕僚長